

会員数 58名 出席者49名 欠席者9名 免除会員5名
欠席者 有家・麻田・和泉享・松山・中野昌・大山・大西和-会員

前々回出席率 82.00%(6/17)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 谷本 順三
幹 事 石合 由明
会報委員長 藤井 紀子

お知らせ

7月のプログラム

- 1 (No.1)-新旧会長引継式
- 8 (No.2)-新委員長挨拶
- 15 (No.3)-クラブフォーラム
- 22 (No.4)-休会
- 29 (No.4)-クラブフォーラム

他RC例会変更

ニコニコBOX;

祝誕生月

小山君

よいことがありました

眞鍋君

吉田委員長クラブフォーラムありがとうございました

谷本君

花岡がバナー補佐をお迎えして

谷本君 秋山憲夫君 齋賀君

3人目の子どもが生まれました

山本由臣君

<ニコニコ会計累積/¥48,000>

がんばるBOX;

誕生日プレゼントありがとうございました

古川君

花岡がバナー補佐の前でクラブフォーラムを終えて。光栄でございます。

吉田君

<がんばる会計累積/¥22,000>

例
会
場
・
事
務
局丸
亀
市
塩
飽
町
48
-
1
丸
亀
プ
ラ
ザ
ビ
ル
5
F

■会長挨拶

皆さんこんにちは、本日は解剖学者の養老孟司さんの昨年のインタビュー記事のご紹介をしたいと思います。ご存知の方も多数いらっしゃると思いますが、養老孟司さんは1937年生まれ、東京大学医学部卒業後、解剖学教室に入り、1995年に退官し「バカの壁」「遺言」など著書を多数執筆されています。この方の考え方は非常にユニークでありながら、聞く人なるほどと納得させる不思議な人を引き付ける魅力を持った方だと思っています。

この方のインタビュー記事で「自分と他人の視点は違う」の標題の中でストレスを避ける工夫が記載されていました。人は多くの場面で他人と議論したり、討論したりする事があり、その時、他人と自分の視点は違うと言う事をわきまえていないと「情報をきちんと追っているはずなのに、他人は理解してくれないと感じ、不安は解決しない」とあせり、不安は増します。結局、何を信じるかは、自分でみつけるしかありません。情報を鵜呑みにせず、情報をもとに自分で考える。それが余計な不安を断つコツと述べられています。日本人は自分の視点を他人に押し付けてしまう所があり、自分と視点が違う人の考えを受け入れる事が難しく、ストレスをためる人が多いと指摘されています。

ロータリークラブ内でも人それぞれ視点が違い、意見や考えが異なる事は少なからずあると思います。その時、他人の視点が違う事を認識しているか否かが大事である事を理解する事ができました。これからクラブの運営にあたり、会員58名の方々の視点が異なる事を認識して、他人の視点を過敏に感じないようにクラブ運営をゆったり進めてまいります。

■会長報告

- ①花岡がバナー補佐、塩田随行員が
ご来訪されました。



花岡がバナー補佐



塩田随行員

■例会事業;クラブフォーラム;プログラム委員会吉田委員長
今年度2回目の例会は、初めてのクラブフォーラムです。ロータリー情報ハンドブックによると、プログラム委員会とは、クラブの例会や特別な会合のために、プログラムを計画し準備し手配します。クラブが、プログラムの実施を通して、いかなる効果を上げているかを検討する委員会です。プログラムは、理事会や他の委員会の計画が、円滑に実行されるように考案され、またバランスの取れたものでなければならぬとされています。

プログラム委員会とは、クラブ奉仕委員会の中の小委員会であり、出席委員会、会報雑誌・広報IT委員会、親睦活動委員会という4委員会構成されています。クラブ奉仕は、他の委員会と違って、自分のクラブをいかに良くしていくかといった、運営管理を行う委員会です。今回、プログラム委員長である私が自ら、登壇し、プログラム委員会のクラブフォーラムの時間を取っていただくことにしました。

また、ロータリーはよく木に例えられます。ロータリーには、皆さんもご存知のように、「超私の奉仕」「最もよく奉仕する者、最も多くの報いがある」という標語があり、それらはモットーとして引き継がれています。木の根底の、石の土台の部分です。

(裏へ続く)

2021.7.15
Vol.59
№2
(2838)

この基本がロータリーの精神的な基盤、倫理観の基盤です。その上に、クラブ奉仕があります。これは、親睦と助け合いで、その上位に「ロータリーの綱領」「4つのテスト」が位置します。木の幹にあたるのが職業奉仕です。財政面で支える基盤も、当然重要になってきます。

ロータリーとは、自分を磨き、人を育て、時には慈善活動やボランティア活動を行う世界的団体です。週1回の例会に集い友情を深め、自己改善を図り、その結果として、奉仕の心が育まれていきます。その奉仕の心をもって、家庭、職場、地域社会で実践を行います。ロータリーの例会は、奉仕の理念を学び、自己の人格を高め、その高められた心をもって、自分の職業や業界において職業奉仕の理念を実践し、あるいは地域社会において、自らが先頭に立って活動します。「真心と思いやりとあたたかな心で、相手の身になって考える」ことを学び、「自分を磨き、人を育てる」ところであることを考えると、ロータリーは、学校と言えると思います。例会を通して、人間学を学び、奉仕活動を行うことができます。

ポール・ハリスがロータリーを始めた出発点である、Fellowshipは、「親睦」と訳されていますが、ロータリアン個人、個人の心が結合した状態を表す「友情」「友愛」と訳す方が分かりやすいと思います。利他の心を持った人を1人でも多く作ることができると思います。

次に、当クラブの例会のプログラムについて、お話します。親睦事業の夜間例会を除く、通常の1時間の例会において、プログラム委員会は、後半の30分間のための運営管理を任された委員会と言っても、過言ではありません。そのため、有意義な時間としたいと思っています。

今年度も、短縮例会になっていますので、前半の食事の時間はありません。前年度同様、卓話、各委員長によるクラブフォーラムを中心に行います。会員卓話をされる方は「しごと」(仕事、私事)のお話を、クラブフォーラムはクラブを挙げての勉強会をお願いします。客話は30分ですが、卓話やクラブフォーラムは15～20分を予定しています。

次年度は、60周年なので、歴代会長や各同好会代表のスピーチをお願いします。また、職業分類表を見ながら、会員の皆さんに公平にスピーチをしていただきたいと思います。コロナに負けず、皆さんと一緒に素晴らしい59年度にしていきたいと思っています。ご協力をお願いいたします。